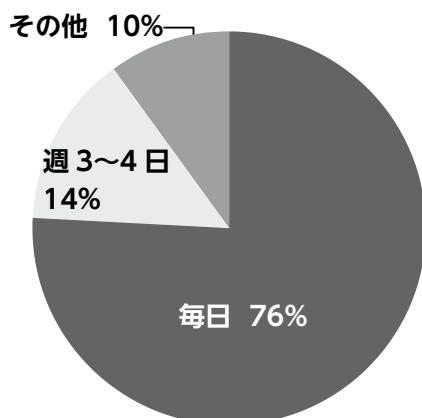


## コロナ禍における読書推進活動アンケート結果(集約) 回答42校

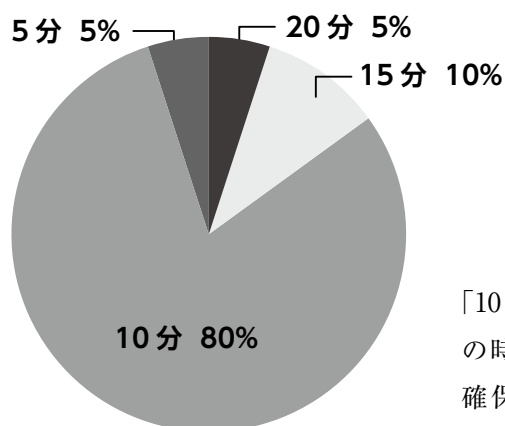
### □貴校の読書活動および環境について (2019年)

#### Q1. 「朝の読書」の実施頻度



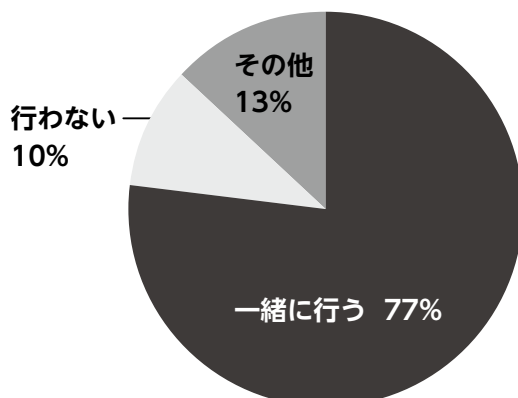
「毎日実施」は76%。  
「その他」の内訳は昼の読書に移行が2校、不定期実施が1校、中止が1校(2019年時点)。

#### Q2. 「朝の読書」の実施時間



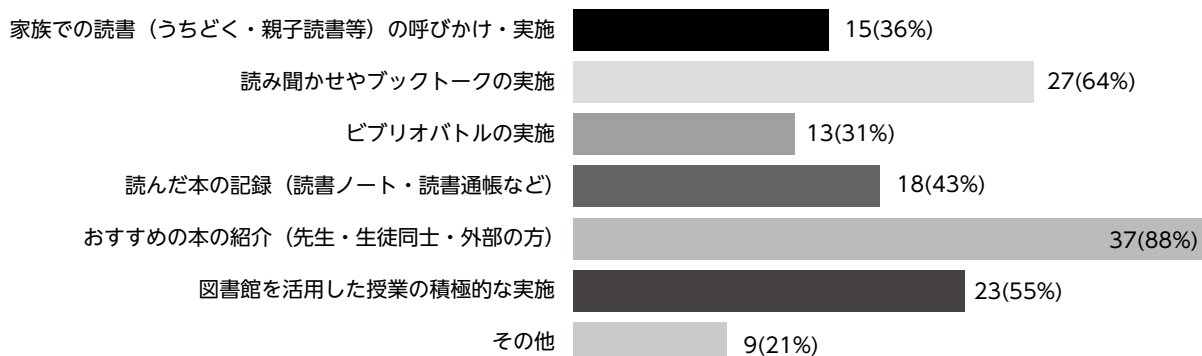
「10分間」が平均的な「朝の読書」の時間と言えるが、15~20分を確保している学校も複数みられる。

#### Q3. 「朝の読書」時の先生の読書



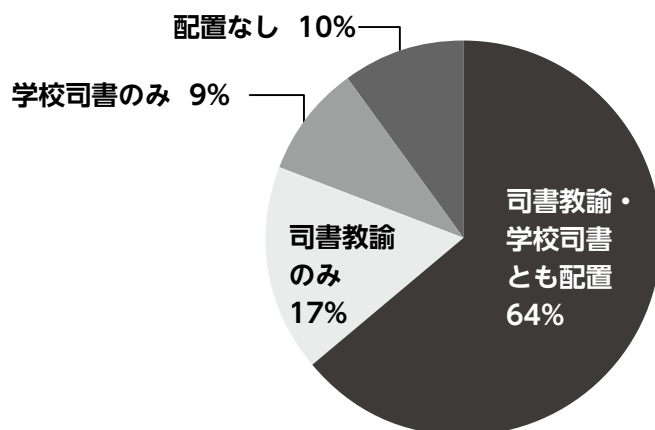
「一緒に行く」は77%。  
「その他」はクラス・教職員・場合により異なる、の回答。

Q4. 「朝の読書」の他に実施している読書活動を教えてください（複数選択可）



- ・「おすすめの本の紹介」は全体の約9割の学校で実施。やはり先生や生徒同士など、身近な人からの本の紹介は効果があるようだ。
- ・「読み聞かせ・ブックトーク」は小学校ではほぼ全校、小・中でも約8割が実施。「ビブリオバトル」も一貫校を含めた高校では約5割実施と普及が進んでいる。
- ・「その他」は「読書会」「読書ビンゴ」「読書月間でのイベント」「一斉読書」「巡回読書」「ポップコンテスト」「マイしおりコンクール」「地域の書店と連携した先生方のおすすめ本フェア」など。各校で工夫を凝らしながらさまざまな取り組みを行っている。

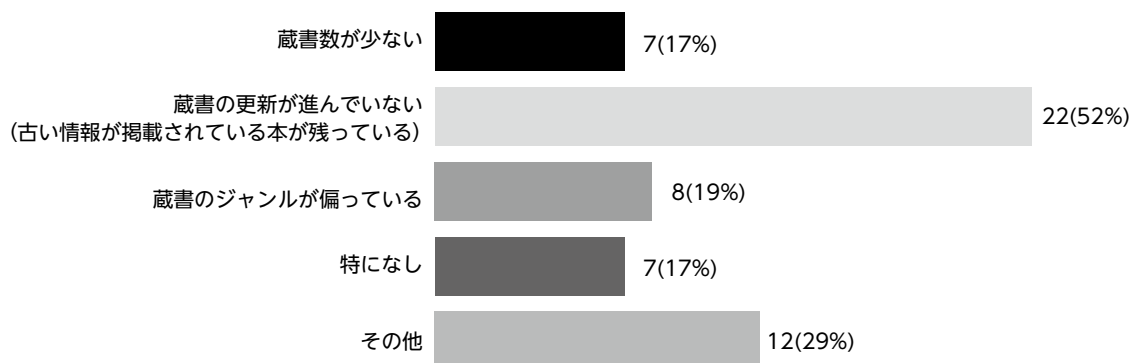
Q5. 司書教諭・学校司書の発令・配置



Q6. 蔵書数

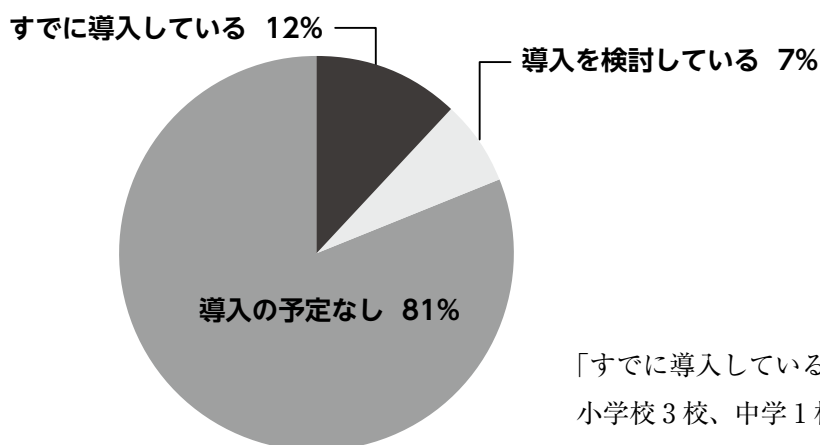
（回答校の平均）小学校 11,354 冊、中学校 15,242 冊、高等学校 25,976 冊、中高一貫校 47,587 冊  
特別支援学校 3,043 冊

Q7. 貴校における図書館蔵書の課題はどのようなことですか？（複数選択可）



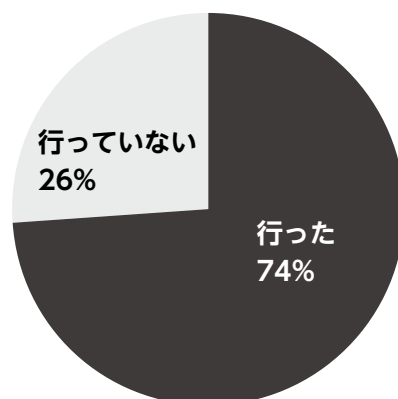
「蔵書の更新が進んでいない（古い情報が掲載されている本が残っている）」を半数以上の学校が選択。  
「その他」は図書館が狭い、スペースが足りない、予算が足りないなどの回答が多かった。

Q8. 電子図書館の導入について



☑コロナ禍での読書活動について（2020年）

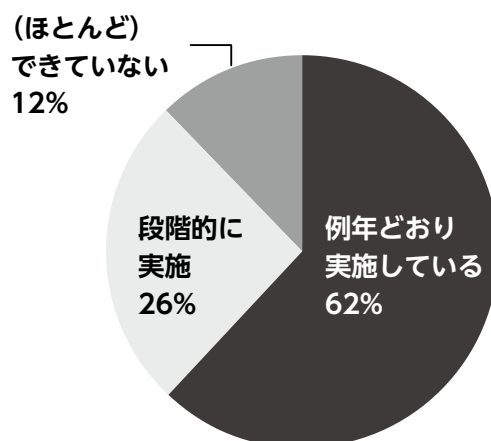
Q9. 今年3月からの休校中に、児童・生徒に対して「読書」の呼びかけ等の取り組みは行いましたか？



### 「行った」具体的な内容

- ・おたより・ホームページ等で読書の呼びかけをした（小）
- ・家読（うちどく）を勧めた。登校日に朝読、うちどくプリント等を実施した（小）
- ・児童による「おすすめの本」紹介カードを作成した（小）
- ・休校中に図書を利用したい場合は電話で来校日を相談し、貸出を行った（小）
- ・貸出数上限を2冊から5～10冊に増やした（中）
- ・休校中の課題として、国語科等の教科で読書紹介を行った（中）
- ・新1年生に向けて、3年生全員が「おすすめの本」を書いた（中）
- ・生徒に合わせて具体的な読み方を提示しながら読書を推奨した（中）
- ・学校図書館だよりを通じて読書を呼びかけた（小・中）
- ・分散登校時に図書の貸出を行った（小・中）
- ・主に新入生に向けて図書館の紹介、利用案内の記事を学校のHPに掲載し、読書を促した（高）
- ・国語科のWeb授業配信の際、読書の呼びかけを行った（高）
- ・入学者に「春休みに読んでおきたい10冊の本」を合格者招集日にレジュメで配布した（高）
- ・学校HPでオンラインによる読書手段の情報提供や電子図書館利用IDの貸出提供を行った（高）
- ・貸出希望をメールで受け付け、蔵書を郵送した（一貫校）
- ・司書と先生による本の話のライブ配信を行った。カーリルのサービスを利用して自宅からも本館の蔵書検索・予約ができるようにした。総合学習のオンライン授業を利用して図書館の本棚を案内やレファレンス対応を行った（一貫校）
- ・学校通信やHPの校長コラムで呼びかけた。休校中の学習課題として読書を課していた教科が多かった（一貫校）

Q10. 休校措置解除後、「朝の読書」ならびに読書活動は例年どおりに実施できていますか？



### 「例年どおり実施している」

- ・全校一斉の「朝の読書」、および朝の読書での「読書スピーチ」を例年どおり実施（小）
- ・「朝の読書」「図書館活用授業（各教科、総合での調べ学習）」「図書を活用した授業（ビブリオバトル、ブックトーク、読書郵便など）」を実施している（中）

- ・「朝の読書」ならびにブックトーク等の図書館指導員による活動などおおむね通常どおり実施（中）
- ・「朝の読書」は通常実施。昼休みの開館を曜日ごとに学年別にし、貸出・返却方法の工夫もしている。図書館で行う行事の企画でも、人を集める・人が集まる行事を行う際は工夫をしている。毎年行っているビブリオバトルも、参加人数や椅子の配置方法などに配慮して継続している。（中）
- ・「朝の読書」も通常の貸出業務も6月から徐々に実施し、現在は例年どおりに行っている（高）
- ・選書会（生徒が書店に赴き図書を購入する）は、書店で選ぶ場合は個人で書店に行き、書店に行かない場合はネットや雑誌などの情報から選書する方法をとることで行うことができた。貸出は消毒作業や人数制限をしながら、ほぼ例年どおり行っている（高）
- ・「朝の読書」「校内読書感想文コンクール」「読み聞かせ講習会」「おすすめの1冊を語る読書LHR」すべて行っている（高）
- ・休校中もオンライン授業でホームルーム等を実施し、時間表どおり「朝の読書」を行っていた（一貫校）

#### 「段階的に実施」

- ・「朝の読書」には取り組んでいるが集会活動は実施できていない（小）
- ・読み聞かせの形態が変更されている。床に座って中央に寄って聞いていたものを各自の机に着席のまま聞くようにしている（ソーシャルディスタンスの確保のため）（小）
- ・教職員・外部ボランティアによる読み聞かせは実施できていない（小）
- ・子ども同士集まっただけの読み聞かせができていないが2学期からは実施予定。コロナ禍でも図書館のできる事として、カーリルの学校図書館支援プログラムを利用している（小）
- ・しばらくの間、ブックトークを中断したが、2学期以降再開した（中）
- ・休校解除後すぐはトイレが密にならないよう休憩時間を長くしたため「朝の読書」を休止したが、現在は実施している。図書委員会は縮小して活動し、図書館でのイベントは行っていない（一貫校）
- ・「朝の読書」は実施できているが、生徒が他学年のクラスに本紹介に行くこと、司書によるストーリーテリング、系列の幼稚園生を招いてのおはなし会は実施できていない（一貫校）
- ・高等部の生徒が小学部の児童のために行っている読み聞かせは、動画に撮って配信する形で実施した（特別支援）

#### 「(ほとんど) できていない」

- ・今年度、読書の取り組み時間を変更した。例年どおりの時間確保ができていない（小）
- ・「朝の読書」の時間を、国・算の復習に充てている（小）
- ・児童センターでの絵本読み聞かせ、放送によるブックトーク、読書スタンプラリー、POP講座、書店で図書選定実習などができていない（高）

**Q11. コロナ禍で感じた読書の効果・影響について、またコロナ禍で読書活動を行うにあたり苦労されている点を教えてください（記述式）**

#### 「コロナ禍で感じた読書の効果・影響」

- ・休校明けは、本の貸し出し冊数が減るだろうと予測をしていた。しかし、実際は予想を上回る貸し

- 出し数となった。本校の児童は本当に本が好きなんだと分かった（小）
- ・休校のときには、本好きの子どもたちにとっては、読みたい本が読めず、ストレスになったようだ。外出できないときこそ、本の力が必要だと感じた（小）
  - ・放課後に職員による清掃・消毒作業を行わなければならなくなったため、時程を見直し、「朝の読書」の時間を泣く泣くカットしている。その代わりに、朝早く登校してきた児童が、朝のホームルームまでに自主的に読書をしている。また、テストを早く終えた児童は読書をしてテストが終わるまで待っている。読書好きな児童が多く、コロナ禍でも、ストレスを発散するための1つの方法になっている（小）
  - ・休校後、図書館を利用する生徒の様子を見てみると、読書できること、図書館を利用できることが心からうれしいという様子が見られた。開館の制限がある中、昨年度と比較しても貸出冊数は減っていないので、読書への意欲はずっと維持されていることが窺えた（中）
  - ・休校期間中、分散登校の際に学校図書館を開放したところ、大量の本を借りていく生徒もおり、読書の時間がやすらげるひと時として必要なものなのだと感じた（中）
  - ・家で過ごす時間が増えたことにより、家にいる時間に読書をする人が多くなったように感じる。今年度の夏休みの宿題で課題作文として読書感想文を選択する生徒が多かった。内容についても、じっくり読んで考え、自分の言葉でしっかり書けている感想文がたくさんあった（中）
  - ・休校措置の期間は、家庭での時間が増え、本の貸出が増加した（中）
  - ・休校が開けても生徒が教室から出ることが少なかった。図書館オリエンテーションを行ったが、1年生の利用は他学年に比べ極端に低い（高）
  - ・図書館の貸出が昨年度に比べ減少している。休校中の遅れを取り戻すため授業の進度が速く、生徒たちが多忙なこともあり、読書をするゆとりがないように思われる（高）
  - ・自宅学習期間中に読書に励んだ生徒もいたため、貸出冊数が減っている感じは受けない。（高）
  - ・休校中の登校日は、本を借りる生徒が多く、外出自粛のみまつぶしになっているようだった。また、2か月間休校していたものの、貸し出し数は例年どおりなので、それぞれ読書の楽しさを再確認できたのではないかと感じている（一貫校）
  - ・ピンポイントでの検索はwebでも可能だが、体系的にまとまったものや、本棚を眺めているの出会いなどはオンラインでは難しい。人と本がそろった、図書館という「場」の重要性を改めて実感した（一貫校）
  - ・休校が解除されてからの図書館入館者が増えた（読書活動の再開を楽しみにしてくれていた表れではないかと考える）（一貫校）

### 「苦勞している点」

- ・「図書室の消毒」「入室前の手指消毒の徹底」（小）
- ・やはり飛沫が心配なので、マスクを着用しての読みみかせ（ブックトーク等授業の中で）が息苦しくなるので、気になる。子どもが集中するまでの時間がかかる（小）
- ・読み聞かせが実施できていない。消毒業務が負担。密を避けるため、貸し出しを学年ごとに制限している（自由に借りることができない）（小）
- ・図書館入室の際の手指消毒、3密の回避への配慮・本の消毒作業（日々の業務に付加）（中）
- ・図書室の入室制限をしたので、図書室にきたい生徒が来ることができない。入室制限のため返却期限の遅れが見られる（中）

- ・昼休みの開館も学年ごとに分散、授業で図書室を利用することもなくなり、生徒が本に触れる機会が激減した。ボランティアの移動図書も実施できず、本好きでない生徒に本を手渡すのは難しい(中)
- ・狭い図書館では3密を避けるのが難しい。せっかく来館してくれるのに、人数制限で入館できない生徒がいる(高)
- ・図書館では消毒・換気に留意し、座席の配置を変更して対面に座らないよう、隣席との間隔も空けている。そのため、HR全員が図書館を利用すると離れた場所にある机も使用するようになり、説明がしにくくなっている。ビブリオバトルなど対面で行うものは従来の方法では実施が困難(高)
- ・生徒図書委員ができる仕事に制約があること、大人数を集めたイベント(高)
- ・まず図書室が狭いため、図書室内で本を読むことが難しくなっている。返却された本の消毒作業に追われ、職員の負担が増えた(特別支援)

**Q12. 今後の「朝の読書」ならびに読書活動について、課題と考えていることを教えてください(記述式)**

- ・「学校図書館の充実」と「学校図書館を活用した授業の工夫」(小)
- ・地域の読み聞かせグループがご高齢のため、今年度活動を休止しており、子どもたちへの読み聞かせの機会が減少した(小)
- ・活字をすらすら読める様になる事が一番の課題(小)
- ・図書ボランティアの人数の減少、図書委員児童の負担(本の移動など)の増加(小)
- ・読書活動の質的向上、目的をもった読書の推進(小)
- ・朝の読書の時に、教師も児童も一緒に活動を行うということで実施しているが、時代の流れで、様々な児童や家庭が有り、教師が保護者への家庭連絡等で一緒に読むことが難しくなっている(小)
- ・学齢に応じた本を読めること。集中して読めない子どもへの対応(子どもによって対応が異なる)。幅広いジャンルの読書をすすめること(小)
- ・学校で子ども新聞をとっている。高学年は時事問題などにも目を向ける機会をつくるためにも、本だけでなく新聞にも親しませたい(小)
- ・現状では時程を変更し、少しでも放課後の時間を生み出すために「朝の読書」の時間をカットしているので、「早くコロナが収束(終息)し、時程を元どおりにできれば」と思っている(小)
- ・生徒も職員も全員で読書の時間としたいが、不登校傾向の生徒や遅刻する生徒が多いと一部落ち着いて読書ができない場面がある(中)
- ・文学的文章を好む生徒は多いのだが、その他のジャンルになかなか手が伸びないことが課題だと考えている(中)
- ・できれば中学生のうちからさまざまなジャンルの本に触れてほしい。国語科の授業で学習した内容に関連する書籍の紹介や、同じ作者の別な作品などを紹介していきたい(中)
- ・家族読書では生徒は素直に行ってくれるが、最近の話を聞いてみると親が忙しい、もしくは親自身が本を読まないため消極的である。親にも家族読書を楽しんでもらいたい(中)
- ・活字が多い小説、特に昔の文豪などの作品を読ませたいが、普段読書をしない生徒もおり、ライトノベルやスポーツの本など、各自が読んでいる本に偏りがあること(中)
- ・学校でのタブレット普及による、電子図書と紙の本(学校図書館)の読書活動をどう両立させてい

- くか（図書館を利用する人が減少するのではないか）（中）
- ・読書が苦手な生徒への働きかけ（中）
- ・朝の読書・さまざまな読書活動、ともに良い状態なので、前向きに維持していきたい（中）
- ・調べ学習時、多くの本を読んで情報をまとめていくとき、本を読み込めていないので、より詳しい情報を収集することが難しい（中）
- ・先生方に共通認識を持ってもらうこと（高）
- ・長年継続することの難しさ（教職員の目的意識の低下等）（高）
- ・生徒の活字離れの傾向はあると思う。また、ケータイ小説やライトノベル、映画やドラマの原作となった本に人気があり、読書内容に偏りがあるように感じる（高）
- ・生徒が選ぶ本の質をいかに向上させるかということ（高）
- ・朝の読書で読む本以外に読書が広がらない（高）
- ・「教職員の人事異動に伴う意思統一」「担当者変更による継続」（高）
- ・「校時の設定」、「電子書籍やオンラインによる、いつでもどこでも読書ができる環境の整備」（高）
- ・よく本は読んでるので、その本をレベルアップできればよい（一貫校）
- ・「先生も一緒に読書する」ということも朝の読書において大きな意味合いがあると思うのだが、出欠確認等その時対応しないといけないことが発生し、一緒に読書できていないのが課題（一貫校）
- ・朝の読書についての共通理解を毎年初めに教職員に実施する。本校の朝の読書の歴史を新採用職員に理解してもらった上で実施している（共通テキスト配布）（一貫校）
- ・朝の読書4原則を徹底させる。今年度は6月スタートであったため各クラスの読書活用や朝の読書についてのオリエンテーションの時間がとれなかったためホームルームで指導してもらうようお願いしたが、実際に司書が説明できる機会を設けられるようにしたい（一貫校）
- ・学級によっては朝の読書の時間がとれなかったり、読書に興味がなく読めない児童生徒がいたりすること（特別支援）

**Q13. 書店や出版社、出版業界に対して、ご意見や要望などがあれば教えてください（記述式）**

- ・世の中が変わり、いろいろと大変でしょうが、「文化」の発信源、「文化」の見える形として守り続けていただきたい。読書は「心を耕す」大切な活動です（小）
- ・ビッグ絵本の品切れが多い。国語科（東書）の3年生の教科学習で「モチモチの木」の学習で使用したいが購入できない（小）
- ・目を引きそうなポスターなどいただけると読書推進につながるので、ありがたい（小）
- ・コロナ禍で「Day to Day」講談社、「ヨメルバ」KADOKAWA など、楽しい企画を考えてくれた出版社には感謝しています（中）
- ・教科書に掲載されている本が、絶版・品切れのものが多い。コロナの影響も考えられるが、入手できるようにしてほしい（中）
- ・この前、図書館に久しぶりに来館した中学3年の男子生徒が、並んでいる本を1冊ずつ丁寧に手に取り、食い入るように読んでいました。手に取るときの姿は宝物に触れているように見えました。それぐらい目が輝いていました。生徒は「先生、読書ってやっぱりいいね」とひとこと言って本を



大事に抱え、満面の笑みで何冊かの本を借りていきました。ビブリオバトルや図書委員会に参加している生徒も、本を通してつながり、本の良さを伝えようと一人一人頑張っています。

子どもたちが良質な本に出会えるように、そして紙の本の文化が継承されていくように、これからも多種多様な本の出版をお願いします（中）

- ・学校が地方にあり、また町の書店での購入となるので本が届くのが遅くなる。注文から配達までの日数がかからない方法はないか（中）
- ・生徒は装丁で選書することが多いので、1冊の本に対し複数の装丁が展開されると手に取る可能性が高まると思う。できれば、文豪と呼ばれる著者の本について、そのように対処してほしい（高）
- ・地元の書店と一緒にブックフェアを実施しています。これが他の地域に広がったり、担当者が変わっても継続されることを願っています（高）
- ・子どもの本がすぐ絶版になるので、そのタイミングで購入しないと手に入らなくなってしまうことに困っている。また、仕方ないことなのかもしれませんが、1冊当たりの単価も上がってきたように感じる。文庫本など、子どものお小遣いでも購入できるものを残しておいてほしいです（一貫校）
- ・情報提供を今まで同様お願いしたい。生徒の学びに合致するような書籍や現代課題に対応する書籍の出版を期待しています。生徒の興味を惹くようなタイトルや表紙にも工夫をお願いします（一貫校）

※ 本アンケートは「朝の読書大賞」歴代受賞校全42校に対し、2020年9月11日（金）に要請した。  
回答期限は10月31日（土）までの約1か月半。全42校より回答いただいた。